



マッシュルーム作りに情熱を注ぐ

蛇川貴安

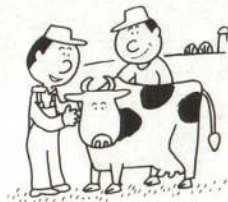
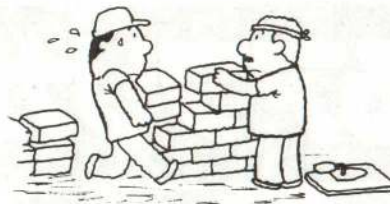
(農業・23歳)

農家の長男というだけでもないが、高校(鷹農)を卒業してすぐ父を手伝い土と戦っている。父にはまだ到底かないっこないが、将来は自分の手でもっと近代的な複合経営をしてやろうというのが夢。ところで今は夏は米、そして冬は東北地区では珍しいマッシュルームの栽培をしている。堆肥作りを始める10月頃から5月頃までがシーズンだ。10年近く前、父が本を読み独学で始めたという。だから、専門家から言わせると技術的に未熟な部分もあるらしい。父は、そこで僕に新しい技術をもっと学んで欲しいと思っているようだ。

ところで、僕の唯一の楽しみは車。ほんとはガールフレンドを乗せて走りたいが、あいにくい。だから今の望みは、せめて週1回は休みたいということ。でないと嫁さんが来ないかもしれない……。

幼かった頃の私の中にある母は、いつも白衣を着て明るく誰にでも優しい母。いつからか、私も大人になったら母のような看護婦さんになるんだ、そう思っていました。そんな私が、晴れて夢を遂げることができたとき、母はともうれしそうに、そして「看護婦の仕事は、医師の助手の仕事も大切だけど、患者さんの精神的な援助をすることがもっと大切。少しでも多く、患者さんに話しかけるのよ」と話してくれました。

そんな母も、昨年退職し今は家族でカラオケを楽しむのが大好きなおばあちゃん。私はというと、奇しくも母と同じように国鉄マンに嫁ぎ、仕事と家庭の両立に悩まされつつ、それでも絶対患者さんになるべく、毎日奮闘中です。



継者

われら

今年「国際青年年」。参加・開発・平和というテーマのもとに、若者たちの積極的な社会参加が期待されます。さて、若者たちの都会指向が進む中で地元に残り、父や母などの仕事を受け継ぎ地道に働いている若者もたくさんいます。後継者として苦しみ、悩み、そして新しい道を模索しながらも、これからは「私たちの時代」とハリキッて仕事に励んでいます。



母の白衣姿にあこがれて

佐藤範子

(看護婦・27歳)

新春 箏 演奏会

と き・1月18日(金)午後6時30分
と ころ・市民文化会館中ホール

- ▶ 略歴・小学校五年生のころから箏を学ぶ。'58年東京芸大卒。以後、国内外で公演し高く評価される。'71年、'77年、'81年、'83年と芸術祭優秀賞を受賞。
- 曲目・水の変態
・箏独奏のための讃歌
・十七絃箏とテープによる箏遊行
・箏と十七絃による百花譜

▶ 略歴・八歳から宮城道雄に師事。東京芸大卒業。沢井忠夫・一恵ジョイントリサイタルでデビュー。その後国内外を公演し、高い評価を受ける。'79年芸術祭優秀賞を受賞。



沢井一恵



沢井忠夫